



電気電子機器廃棄物

E-waste (Electronic and Electrical Wastes)

バッテリーや電気・電子回路を搭載している電気製品や電子機器が廃棄物となったもので、中古利用されずに分解、処分されるものです。

世界ではどうなっているの？

世界中で、電子廃棄物の年間発生量は年間6,200万トン（2022年）に上ります。毎年260万トン増加しており、2030年には8,200万トンに達する見込みです。

適切に収集されリサイクルされたものは、その年に発生した電子廃棄物の4分の1未満（22.3%）です。また、水銀などの有害物質を含む可能性があり、人間や環境へ被害を及ぼす恐れがあるほか、電子機器に使われている貴重な資源が回収されないままになっています。

参考：国連訓練調査研究所（UNITAR）



不燃ごみ処理センターの火災（令和2年11月21日）

日本（東京）ではどのように取り組んでいるのだろうか？

日本では法律によりリサイクルの仕組みが整っています。例えば小型家電リサイクル法は、レアメタルを含む有用金属が回収されず、焼却、埋め立てされる現状を変え、都市鉱山として活用していこうというものです。東京オリンピック開催に向けて行われた「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」も資源回収の一環です。

一方、分別せずに捨てることで、収集車や処理施設においてリチウムバッテリーにより火災が発生するなどの問題が現在でも存在しています。一人ひとりがきちんと分別し、適切な捨て方をするすることで、汚染を減らしつつ、資源のリサイクルを進めることができます。